

ケショウヤナギ

Chosenia arbutifolia

ヤナギ科



ケショウヤナギ

名前の由来

「ケショウ（化粧）」は、枝も葉も幼樹の頃には白蠟質に覆われおり、1年生枝の紅色と合わせて非常に美しく見えることから。「ヤナギ」は①古く中国で矢をつくったことからヤノキの転。②成長しやすいためイヤナガ（彌長）の略。③梁をつくったことからヤナ木。④柔荑木（やわなぎ）の意。などといわれている。漢字名：化粧柳

特定種

北海道レッドデータ：希少種

形態的特徴

樹高20m、幹はほとんど分かれずほぼまっすぐ伸びる。若枝は冬～春には紅色で白粉がついている。葉はやや厚く倒披針形、長さ4～7cm、裏粉白色。鋸歯はあるがあまり明らかではない。托葉はない。雌雄異株。雄花序は淡橙黄色、雌花序は淡緑色で長さ2～5cm、下垂し、5月上旬開花。果実の付く果序は斜上し長さ約5cm、6月に成熟。



ケショウヤナギの若枝。白く「化粧」している。また托葉が見られない

類似種との見分け方：ケショウヤナギの葉は厚めで白粉が強く、鋸歯が明らかでない上に托葉がない。また若いうちは根元付近から多くの枝を出す。



ケショウヤナギの雄花 ケショウヤナギの雌花 ケショウヤナギの実。開き始め

ケショウヤナギの種は綿毛に包まれて飛散する

ケショウヤナギの葉。ギザギザは不明瞭



雄花が咲いたケショウヤナギは葉が赤っぽく見える



ケショウヤナギの樹形。幹が直立し、根元近くから枝が出る



ケショウヤナギの樹皮。縦に深く裂ける



ケショウヤナギの冬芽

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原樹林) 鳥類
ワシ(タカ)

生育環境・分布

日当たりの良い河岸の、玉石が多い砂礫地

分布: 国外分布は、シベリア（東部）、カムチャッカ、樺太、中国（東北部）、朝鮮。国内分布は、北海道、本州（長

野県）。北海道内分布は、十勝、日高、渚滑川など。十勝地方生育状況は、十勝川水系の千代田堰堤より上流の河畔（特に札内川）と利別川の一部。

繁殖生態・寿命

5月上旬開花。ヤナギ科には珍しく、虫ではなく風によって花粉を飛ばして受粉をおこなう風媒花である。果実の付く果序は斜上し長さ約5cm、6月に成熟ヤナギ類の種子に

は無数の長毛がつき、風散布される。その距離は数100mから数10kmにまで達するという。上高地に推定樹齢150年以上のものがあるという。寿命は一般的には60~70年という。

他生物との関わり

《ヤナギ一般》ヤナギ類は新条（その年に出た枝）が伸びるにつれ新しい大きめの葉を先に付けるが、早くから出た

葉は順番に落ちていく。これによって長期に渡り水生昆虫に餌を供給でき、魚を養うことができる。

植栽関係

不定根が出にくく、埋枝（枝挿し増殖）には向かない。また移植も困難で2年生では成功例があるが、成長はやや劣るといふ。ただ2002年に陸別の落合昭氏が苗木の商品化に

成功した。日当たりがよく冠水頻度があまり多くなく、他の植物が侵入しにくい礫質土壤に、種子が定着しやすいと考えられている。

興味深い話

- 器具材、下駄材などに用いられる。
- 落葉期にはその枝先が赤く見え、非常に美しいので「河畔林の女王」とも言われる。
- 学名の「Chosenia」は朝鮮半島で最初に見出されたのを記念したもの。
- 日本国内では長野（上高地）、北海道にのみ分布し、こうした分布形態を隔離分布と呼ぶ。寒冷期にはもっと広く分布し、その後の気候の温暖化で分布域が狭くなったと考えられていて、氷河期の残存種ともいわれている。生育地が長野と北海道（特に十勝）とかけ離れた理由については、①寒冷期にすべてサハリン経由で南下し広がり、温暖になり生息域が北上する過程で、その特殊な生態的特性によって著しく分布域が制限された、という考えと、②サハリン経由と朝鮮半島経由の二系統で南下したため、元もと東北・北陸・関東には生育していなかった、という2つの考え

方が出されている。（新山 1989）

- ケシヨウヤナギは、10年間の平均減少率が20%、100年後の絶滅確率が10%といわれ、環境庁（現環境省）レッドデータブックの絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。
- ケシヨウヤナギは、その種子の定着場所として砂礫地を必要とするため、堤防整備によって氾濫原が減少した現在、次世代の成木が著しく減少する懸念がある。
- 希にオオバヤナギとの間に、属間雑種となるカミコウチヤナギ（*Toisochosenia kamikochika*）ができるという。
- （ヤナギ一般について）ヤナギは全体として早熟性であり、発芽後10年ほどで種子散布をおこなう。また風散布によって種子が遠距離まで分散するため、その生育域を短期間に広げる可能性を持ち、「速足の旅人（クイックトラベラー）」と呼ばれるという。

配慮事項

成木林の立地は、新たな種子の定着場所とならないため、成木林の近くに氾濫原様の砂礫地が存在していることが大

切である。一般的に植樹や挿し木には向かない。

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜瑠西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学図書刊行会 1992
「樹木大図鑑」高橋秀男監修 北隆館 1991
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
「ヤナギ類 その見分け方と使い方」斎藤新一郎（社）北海道治山協会 2001
「森林で遊ぶシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996
「改訂増補 牧野 新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集

北隆館 1989
「生育環境別 日本野生植物館」奥田重俊 編著 小学館 1997
「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「十勝大百科事典」十勝大百科事典刊行会 編 北海道新聞社 1993
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物〜レッドデータブック 植物 I（維管束植物）」環境庁野生生物課 2000
「十勝毎日新聞」2002.10.5

札内川に沿ったケシヨウヤナギの分布と生育地の土性 新山馨 日本生態学会誌 第39号 pp:173~pp:182 1989
ケシヨウヤナギ（化粧柳）—氷河期のおくりもの—の国内分布と生態 吉田勇治 旭川大学地域研究所年報 第16号 pp:31~pp:48 1993

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）花

（外来種）花

哺乳類

（水辺）鳥類

（草原・樹林）鳥類